

少しずつ春の温かさが増してきました。今朝はみなさんの入学を祝うかのようにたくさん
の桜が花をつけて待っていてくれました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

みなさんの入学を心から歓迎します。

この学校は1884年にカナダからの宣教師マーサ J. カートメル先生によって、日本に
神様の言葉を伝えるために建てられた学校です。

昨年創立140年を迎え、今年は新たに141年目の歩みを進める年です。

東洋英和の長い歴史の中でこの学校が一番大事にしている言葉があります。それは、先
ほど読んでいただいた聖書の言葉です。

**「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛
しなさい」**

「隣人を自分のように愛しなさい」

このイエス様の2つの教えを端的に表したものが「敬神奉仕」。学院標語です。皆さんの
正面、ステージの左右には「敬神」と「奉仕」の額が掛っています。この「敬神奉仕」を見
ながら、みなさんの先輩たちがここで礼拝を捧げてきました。伝統が凝縮された場所です。

東洋英和では、生徒がどのように成長して欲しいのかハッキリとした目標があります。
それは「敬神奉仕の意味を知り、それを実際に行うことのできる人物」です。

「神を敬い、隣人を愛する」とはどのようなことか？

皆さんは、今日からはじまる東洋英和の、すべての機会でそのことを学んでいってくださ
い。

■モナークバタフライ

蝶の話をしてします。

モナークバタフライ（学名：オオカバマダラ）という蝶がいます。モナークは皇帝・王
様という意味なので王様蝶とでもいうのでしょうか。モナークバタフライはすごいことを
やってのける蝶です。“渡り”をします。“渡り”というのは、渡り鳥のように飛んで
遠くの地を目指し、そして再び帰ってくるということです。蝶が渡りをするのは珍しい
のですが、何種類かあるようです。しかし、このモナークバタフライは渡りの規模が違
います。カナダからメキシコまで渡りを行うのです。その距離およそ4000Km。（本州の長さ
は1500Km）そしてこの蝶の信じられない生態は、その渡りが何世代にも継いで行われる
というところです。

北のカナダの大地に生まれたモナークバタフライは、夏の終わりになると数千羽の群
れをなして南を目指します。カナダアメリカの国境のナイアガラの滝や大きな湖を超え
て、大きな草原地帯を超えて、メキシコ湾を超えて、メキシコ中部の山里まで辿りつき

ます。大飛行です。蝶の生涯のほとんどにあたる一か月をかけて辿りつきます。そしてその地で生まれた次の世代が、サナギになり冬越しして、春の訪れとともに今度は涼しい北を目指します。この北帰行は何か困難があるのか、世代を跨いで行われます。アメリカの大地の途中で産卵をし、次の世代にバトンタッチ。数千羽でスタートした蝶は半分に減りながらカナダの祖先の地に戻るのです。戻った蝶はひ孫世代になるのだそうです。すごいですよね。

毎年決まった越冬地に迷わずにたどり着くことができる。その特殊能力の理由は実はよくわかっていないそうです。蝶は、太陽の位置を読み取り、地球の自転で生じるずれを触覚の体内時計で修正しているとのことで、この複雑な方位計測能力が旅のルートを決めているらしいのです。

しかし、なぜ、モナークバタフライはこのような生態を持つのでしょうか？

生まれた場所に留まっていれば安全なのに、なぜ、この蝶は“渡り”という危険な冒険を、しかも何世代に継いでする必要があるのでしょう？

そもそも蝶が羽根を得たのはなぜでしょう？

不思議ですね。

理由の一つは、彼らが生まれた小さな生息圏から地球全体に広がるためだと言われています。たとえそこに障壁があろうとも、そのほうが蝶にとって生きることによりだからと言われています。蝶にとっては、神様に与えられた羽根を最大限に生かした生き方なのかもしれません。

■みなさんが学ぶ理由

さて、私たち人間はどうでしょう。私たち人間は羽根の代わりに知性を与えられました。私たち人間が文明を作り、科学技術を発展させ、今の社会が出来上がりました。先人たちの大きな積み重ねの上に私たちはいます。

その延長上にみなさんもいます。みなさんはこれから中学で様々なことを勉強します。もしかしたらみなさんはこんな疑問を持つかもしれません。わたしはなぜ勉強しなければいけないのだろう？

どうでしょう？ その答えは何でしょう？

人よりもいい成績をとれば生きるのに有利になるからでしょうか。

人よりもいい大学に入れば有利な人生になるからでしょうか。

それらも一つの考え方かもしれません。

しかし、東洋英和ではそのようには考えていません。

「わたしたちは、なぜ、知性を得たのか？」

それは、神様に与えられたこの世界を知るためです。みなさんはまだまだ知らないことがたくさんあります。世の中にはまだまだ分からないことがたくさんあります。神様が与えてくれた世界はものすごく奥が深くてもものすごく面白いものです。学問はそれらをひとつひとつ紐解く作業です。それをこれから、仲間と、先生たちと一緒に学びます。

モナークバタフライはなぜ、何世代にも継ぎながら、遠くの土地まで行き、また戻ってくるのか？ 地球上には、学問の世界には、そのような未知の事柄が数えきれないくらいあります。

その学問をこの学校で学ぶチャンスがみなさんに与えられました。

その学問の中心には聖書があります。東洋英和では、学ぶという意味の本質は聖書にあると考えています。

それともう1つ。学問とは、この世界に関わるため、自分が何かの役割を果たすために、学ばなければいけないのです。

学びとは自分のためだけでなく、「他者と共に生きる」ためにあります。

でもこれは、何か役に立つ能力を身に着ける、重要な仕事に就け、とっているものではありません。「何ができる人間になるか」はもちろん大事です。ですが、それ以上にこの学校が大事にしていることがあります。それは、「どのような人間になるか」です。難しい言葉で言えば「人格形成」といいます。

「どのような人間になるか」を、神様に問いかけ続けてください。同時に、神様に愛されている自分と同じように“隣人（友達）”も神様に愛されていることを自覚して、お互い支え合って、ときには競い合って学んでいってください。

そのことをこの学校では「敬神奉仕」と呼んでいます。

■わたしがあなたがたを選んだ

最後に、聖書からもう1つ言葉を紹介します。

ヨハネによる福音書15章にはこのような言葉があります。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」

みなさんは、この東洋英和に入学するにあたり、一所懸命努力をして勉強してきたことと思います。受験のとき、どの学校にしようか迷ったり悩んだりした人もいます。中には本当は違う学校に行きたかった人もいるかもしれません。小学部からの人は、あまり考えずにそのまま中学部に入学してきた人もいるかもしれません。

しかし、イエス様はこう言っています。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」

みなさんは、神様によって選ばれて、この東洋英和に導かれました。

自分で選んだつもりでいても、実は、私たちは、知ることができない神様の大きな意志によって、その時に最もよいものが与えられているのです。

神様によって、みなさんの最もよい学びの場として、この東洋英和が選ばれました。神様は、いつも私たちと共にいてくださいます。わたしたちのすべてを知っています。

その神様に選んでもらった学びの場がこの学校なのです。

だから、どうぞ安心して通ってください。

今日から過ごす東洋英和での毎日を、のびのびと、元気に過ごしてください。友達をたくさんつくってください。

そして私たちに命を与えてくださった神様から離れずに、自分に与えられた賜物を存分に伸ばしてください。

みなさんのこれからの学校生活がよいものとなりますようにお祈りしております。

ご入学おめでとうございます。以上で私の式辞といたします。

2025年4月7日

東洋英和女学院中学部 部長 石澤友康